

施策番号	2001		
施策名	世界トップレベルの使いやすさをめざした公共交通の再編強化		
概要	市内で運行する交通事業者等の連携によるネットワークを構築し、さらなる鉄道、バスの利便性向上策などを実施するとともに、バリアフリー化の推進、公共交通不便地域や観光シーズンにおける交通対策の強化などを実施する。		
担当局・部室	都市計画局・歩くまち京都推進室	共管局・部室	
上位政策	20 歩くまち		
施策に関する 主な分野別計画等	「歩くまち・京都」総合交通戦略		

施策の評価

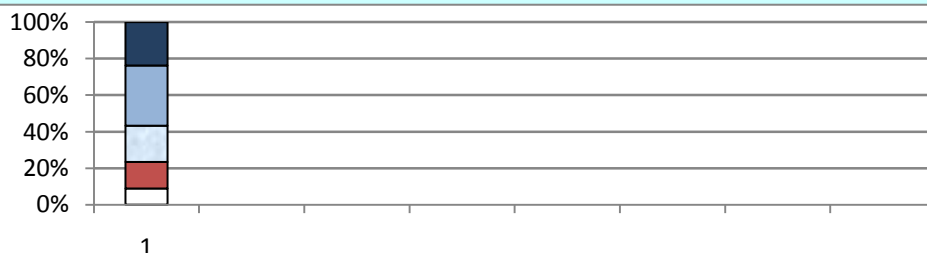
1 客観指標評価

指標名	年度	23年度	24年度評価					指標の ウェイト
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	
1 バリアフリー事業に着手した地区数の割合(%)	-	-	-	58.3%	58.3%	100.0%	a	1.00
2 -	-	-	-	-	-	-	-	
3 -	-	-	-	-	-	-	-	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	
客観指標総合評価							a	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	24年度回答					有効回答 者数	評価
	そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう思わ ない	そう思わ ない		
1 京都での移動には、公共交通が便利である。	134	186	112	82	50	564	b
	23.8%	33.0%	19.9%	14.5%	8.9%		
2 -							-
3 -							-
4 -							-
5 -							-
市民生活実感調査総合評価							b



- そう思う
- どちらかと言うとそう思う
- どちらとも言えない
- どちらかと言うとそう思わない
- そう思わない

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている						23 年度	B
	重み付け	<input type="checkbox"/> 客観指標	a	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の実感	b			
(重み付けの理由) この施策は、市民生活における公共交通に対する満足感を高めることが目的であるので、市民生活実感評価を重視する。								
(原因分析) ・平成24年3月に「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想」を策定し、バリアフリー化の更なる推進に向け取組を進めているため、平成23年度の客観指標評価はa評価となった。 ・市民生活実感評価について、半数以上の方が、「そう思う」「どちらかというと思う。」とされていることから、公共交通の利便性については一定の評価を得ていると考えられる。							年 度	-

今後の方向性の検討

＜この施策を構成する事務事業＞

	事業名	事業費の状況(千円)		24年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		23年度 決算額	24年度 予算額		
1	鉄道軌道安全輸送設備等整備事業費補助	49,755	54,727	かなり良い	都市計画局
2	地方バス路線維持に係る補助金	2,772	2,583	—	都市計画局
3	京北ふるさとバス運行補助	36,534	36,727	かなり良い	都市計画局
4	リニア中央新幹線の誘致推進	—	2,008	—	都市計画局
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

＜今後の方向性＞

・市内で運行するバス、鉄道事業者等の連携によりネットワークを構築し、駅等のバリアフリー化の更なる推進や、交通事業者等との連携による公共交通利便性向上施策等を実施し、京都に住まい、また京都を訪れる全ての人が、快適、便利に利用できる公共交通を構築する。
--

施策名	2001	世界トップレベルの使いやすさをめざした公共交通の再編強化				
指標名	バリアフリー事業に着手した地区数の割合（％）					
担当課	歩くまち京都推進室		連絡先	2 2 2 - 3 4 8 3		
1 指標の説明						
平成14年10月に策定した「京都市交通バリアフリー全体構想」及び平成24年3月に策定した「「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想」で選定した24の重点整備地区のうち、地区移動等円滑化基本構想策定に着手した地区の割合						
2 指標の意味			3 算出方法・出典等			
すべての人にやさしい駅として、バリアフリー化される施設整備の進ちょく状況を示す指標			算出方法：地区移動等円滑化基本構想策定着手地区数 ÷ 重点整備地区数 × 100			
4 数値						
	前回数値 22年度	最新数値 23年度	推移	目標値		
				数値	根拠	達成度
数値	-	58.3%	-	58.3%	重点整備地区(24)のうち、地区移動等円滑化基本構想策定に着手した地区(14)の割合	100.0%
	全国順位	中長期目標			備考	
		数値	目標年次	達成度		根拠
数値		100.0%	32年度	58.3%	重点整備地区(24)のうち、地区移動等円滑化基本構想策定に着手した地区(24)の割合	平成23年度に「「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想」が策定され、新たに10の重点整備地区が追加されたため、今年度から指標等を変更している。
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果		
単年度目標値に対する達成度が a : 100%以上 b : 75%以上100%未満 c : 50%以上75%未満 d : 25%以上50%未満 e : 25%未満		単年度目標値に対する達成度が100%以上をaとし、以下25%単位で基準設定した。			23	24
				-	-	a